

低コストで効率的な施業に向けて

十勝西部森林管理署

はじめに

十勝西部森林管理署は、北海道東部にある十勝平野の西側に位置し、約14万畝の国有林野を管理・経営しています。当署管内の1市7町2村には約11万畝の民有林があり奥地の国有林と併せて広がる雄大な日高山脈の山岳景観と十勝平野の広大な田園風景とのコントラストが特徴的な景観を作り上げています。

地域の課題

十勝地方の人工林は多くが戦後の積極的な植栽により造成され、現在では森林資源として充実に利用期を迎えています。

一方、それらを伐採（収穫）し再造林していくためには初期投資や労働力の確保が必要なことから、育林コストの低減や作業労力の軽減が地域の課題となっています。

取組内容

当署では、大型林業機械による根茎除去を伴う地拵えと、早生樹であるクリーソラーチの植栽により下刈り作業を省略し、経費と労力の削減を目指した施業を実施するとともに、地域の皆様にも紹介するなど、地域の課題解決に向けて取り組んでいます。



現地検討会

今年度は、当該作業地において、地域への普及や意見交換を目的に民有林関係者を対象とした現地検討会

を開催しました。

検討会では、実際に作業を行った事業体から大型機械が作業可能な林地傾斜、根茎除去・枝条整理などの留意点や、苦慮したことなどについて説明して頂きました。

また、これまで当署において実施した、木材生産と造林の一貫作業による事業経費の削減、今後、省略可能な下刈りの経費についても紹介し、造林作業の省略や省力化への理解を深めてもらいました。

今後の取組

深刻な人手不足の中で、伐ったら植える森林の循環利用を進めるためには、造林作業の省略化・省力化は避けて通れない課題です。

今後は、木材生産と造林の一貫作業に加え、コンテナ苗の活用や低密度植栽などの技術についても地域の

皆様に紹介していきたいと考えています。

また、これまで地域で取り組んできた、列状間伐によるコスト削減についても現状を整理し地域へ定着させていくとともに、林地未利用材のコストを抑えた集荷方法も模索しつつ収益の増加に繋げることが出来れば良いと考えているところです。



列状間伐のデモンストレーション

今後も、こうした取組を地域の皆様と一丸となって盛り上げていきたいと思っております。